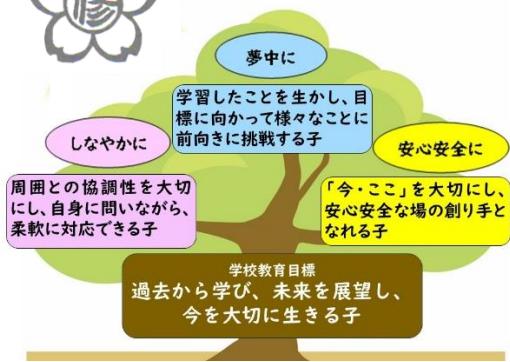




たくさんの「笑顔」「夢」「ありがとう」が集まる学校



令和7年 6月4日
京都市立修学院小学校
校長 鎌田 賢二

校長室だより「こころ」NO.34

それぞれの当事者性がもたらすもの

右の写真をご覧ください。学校内で有名な修学院湖のほとりからとった修学院小学校の写真です。見事ですね。比叡山をバックにこのような写真が撮れる絶景スポットが修学院小学校にはあるんです…



この話は結論から申し上げると嘘です。そのような湖は存在しません。プールはありますがこのような写真はなかなか…。これは撮った写真を真ん中で回転させて左右を反転させたものを張り付けただけです。それ以外の加工は全くなし。湖に見えたのはただの錯覚です。もし、この画像を錯覚したまま言葉にしてしまったら、「修学院湖」が存在するということが広まり大変なことになります。これは情報をインターネットからたくさんとる現代においては気をつけたいところです。人は視覚からの情報が8割と言われるほど目から情報をとっているのですから。

前置きが長いですね…私たちが日常行動するときには何を受け取ってどんな行動をしているのかということに気をつけなければなりません。子どもたちだけでなく、子育てや教育においては行動する人の心理状態によってつい心無い言葉を発信（行動）しているケースをよく耳にします。堅い話になっていますが、簡単にいうと幸せな状態のときに人に対して不適切と考えらる発信はないですよねということです。ということは如何に自分自身が楽しい状態を作りだせるのかそうなるための豊かな情報（行動・言葉）をどう受け取っていくのかということが大切です。こういうときに意識したいのが「当事者性」です。「誰かが自分の機嫌をとってくれる」「誰かが優しくしてくれる」「誰かが笑ってくれる」ということを前提に過ごしているといつの間にかサービスしてもらわないと（もしくは自分の通りにしてもらう）受け取りが否定的になり、その結果他人を責めてすべては人のせいという話に行きつきます。そこに自身の成長は見込めません。当事者性は自分の役割と責任を自覚することから始まります。「わが子の当事者性とは?」「子育てにおいての当事者性って?」「教育において当事者性とは?」「学習者としての当事者性って?」と自ら問いをもつことで見えてくることがあります。

当事者性がもてれば、冒頭に紹介した嘘の情報に惑わされることもなく、自身で考え発信には細心の注意を払えるはずです。ちなみに私が当事者性を支える必要な力と考えているのは共感する力、リーダーシップ力、コミュニケーション力の3つです。当事者性をもって豊かに受け取り行動にうつしていこうと今自分自身も決めます。たくさんの「笑顔」「夢」「ありがとう」が集まる学校を一体となり築きましょう。



発信する前に気をつけていることはどんなことですか？